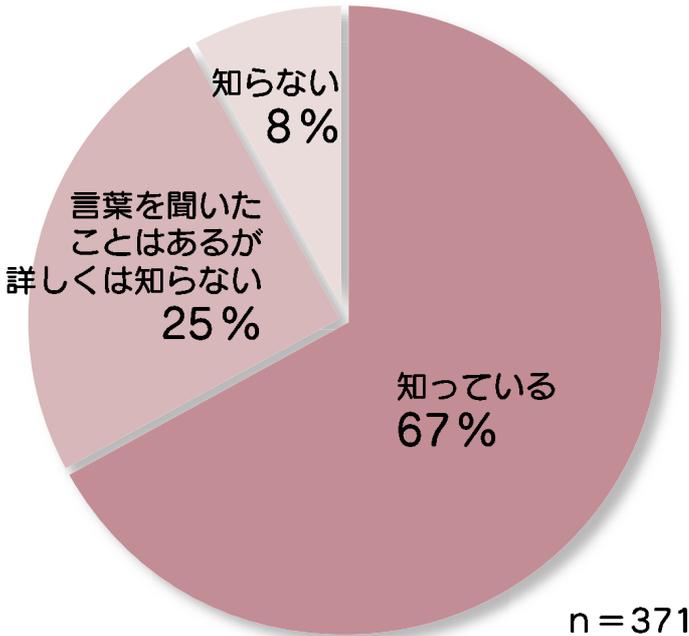
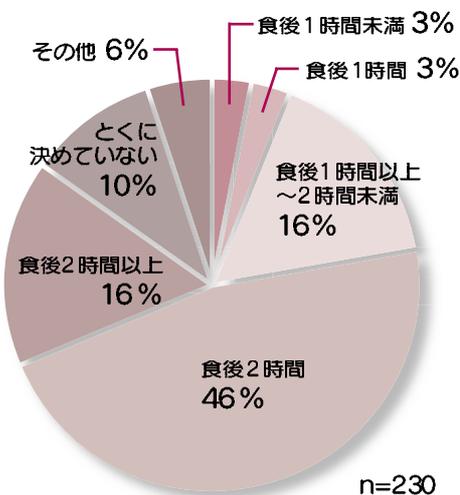


## Q. あなたは「食後高血糖」の意味やそのリスクについてご存知ですか？



「食後高血糖」について3人に1人が「詳しく知らない」と答え、全体の約半数は「詳しく説明を受けたことがない」と回答しました(この中でインスリン療法を行っている患者さんでも3人に1人は「詳しく知らない」と回答)。また、自身の食後の血糖値について主治医に注意を受けたことがある方は約4割を占めました。

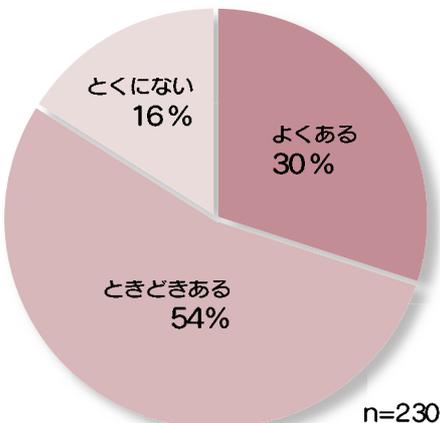
### Q. 食後のSMBGは、通常、食後どのくらいに行いますか？



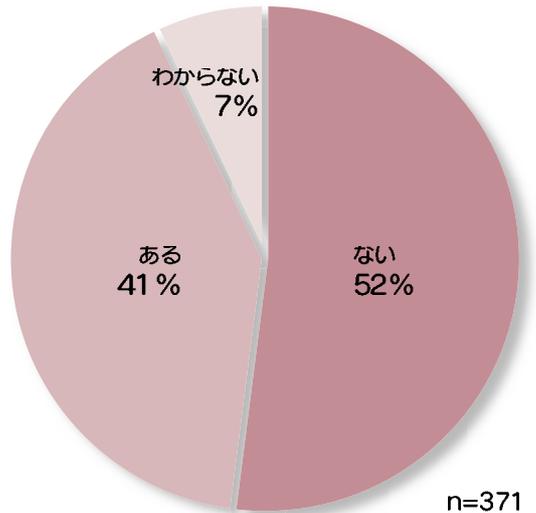
日頃、SMBGを行っている方にうかがうと、「食前のみ」が35%、「食後に行くこともあるが、食前が多い」が31%と、測定は「食前」を重視している方が多く、食後に測定する際のタイミングとしては、食後2時間が約半数でしたが、あとの半数は人によってバラつきがみられました。

自由記述では「食後血糖値の許容範囲がわからない」「脅威を感じているが対策法がわからない」「主治医は食後2時間

### Q. 食後の血糖値をみて不安や問題を感じたことはありますか？



### Q. 「食後高血糖」について、主治医や医療スタッフに詳しく説明を受けたことがありますか？



を重視しており、最高値になる1時間値は無視されていて不安。食後も測定したいがチップ代が高い。相談しても摂取カロリーを守ってコントロールしろとしか指導されない。等、多数の意見が寄せられました。

#### コメンテーター

鈴木吉彦 (財)保健同人事業団診療所 所長、  
日本医科大学客員教授)

食後高血糖は速効型インスリン分泌促進薬、速効型インスリンやグルコシダーゼ阻害薬を処方する際、適応を考える理由として必要な概念なので医師が熟知しているのは当然です。しかし患者は、それが心臓血管イベント減少につながるかどうか、手応えを感じにくいことが本結果でわかります。海外では糖尿病の発症予防に対する薬剤が注目されています。これには本概念が重要ですが、日本での議論はまだです。また、食後高血糖の改善がなぜ心臓血管イベントを抑制するか、その真の機序が明らかではなく、新たな展開が待たれています。